

【2024(令和6)年度 九州一般／九州女子クラブ ハンドボール選手権大会(開催地:長崎県)】

競技上の注意と確認事項

1 競技規則

本大会は、令和6年度(公財)日本ハンドボール協会競技規則によって行う。

2 競技会場

(1) 競技会場・コートの広さは、以下のとおりとする。

○諫早市中央体育館メインアリーナ(36m×20m) 2面

○諫早市中央体育館サブアリーナ(35m×20m) 1面

○諫早市小野体育館(35m×20m) 1面

(2) 別紙「会場使用上の注意」等を遵守して使用する。

3 種別及び参加人数

参加人数は、チーム役員4名以内・選手16名以内の合計20名以内とする。

4 競技方法

競技方法は、各県1位代表および2位代表によるトーナメント方式とする。

(不参加が生じる県の代表枠については、開催県および次年度以降の開催県順に補充する。)

5 参加資格

参加資格は、実施要項「9-(1)~(2)」のとおりとする。

臨時トレーナーについては、別に定める。※競技上の注意「17」参照

6 競技日程・時間

(1) 競技日程は、プログラムのとおりとする。

(2) 競技時間は、「前半30分-休憩10分-後半30分」とする。

同点の場合は、下記の通りに延長戦を行う。

○決勝までの全ての試合

【トス~第1延長(前半5分-休憩1分-後半5分)~7mスローコンテスト(5名)】

(3) 西地区大会の出場決定戦は、「前半25分-休憩10分-後半25分」とし、延長戦は上記同様に行う。

(4) 競技時間は、加算式の電光表示板を使用し表示する。(卓上電光表示板を使用する。)

(5) 競技終了やチームタイムアウトの合図は、ブザーまたはホーン、笛で行う。

(6) 退場者の取り扱いは次のとおりとする。

①退場者の番号と入場時間は、「記録席上に用紙で表示」する。

②入場の判断は、チームの責任である。

記録席から合図することはなく、問いかけられても回答しない。

7 大会使用球(※旧球を使用する。)

(公財)日本ハンドボール協会検定球、男子3号球、女子2号球(モルテン:ヌエバX5000)とする。

8 トス・ユニホーム

- (1) トスは、ユニホーム確認の際に記録席前で行う。立ち合いは、チーム役員・選手のいずれでもよい。
その際、チーム役員の服装(色)及び臨時トレーナーの有無についても確認する。※11(5)、17(1)
- (2) 第1試合のユニホームの確認は、試合開始30分前に記録席前で行う。
その後は、前試合のハーフタイムで行う。
- (3) 確認の際には、試合に着用する全ての種類のユニホームを持参する。
調整がつかない場合は、トーナメントによるチーム番号の大きいチームが変更する。
チーム番号が同じ場合、○が付されているチームが変更する。
- (4) ユニホームについては、次のとおりとする。条件に満たない場合は、当て布等で覆わなければならない。
その色はユニホームと同色でなくてもよいが、チーム全員が同色とし、同じデザインにする。
 - ① 番号の大きさ(高さ)は、胸10cm以上・背20cm以上とする。
 - ② メーカーのロゴは、20cm²以内の目立たないものとする。サポーター等も同様とする。
 - ③ 中に氏名等の文字表記をする場合は、大きさ(高さ)10cm以内とする。
 - ④ 試合中にユニホームが破損したり、血液が付着したりして競技を続行できない時は、別のユニホームに着替えなければならない。その場合は、異なる番号でも良い。
 - ⑤ チームは、ユニホームとして「シャツ・パンツ・ソックス」の色をそれぞれ統一すること。
 - ⑥ ソックスは、色が揃っていればよく、メーカーのロゴは問わない。
- (5) ゴールキーパー
 - ① チームで同色とする。
 - ② コートプレーヤーがゴールキーパーに代わる場合は、登録された同じ番号でなければならない。
登録されたゴールキーパーと同色のユニホームを着用することは許される。
- (6) 身につけられるものについて
 - ① 短パンツの下に着用するサイクリングパンツやウォームパンツ(アンダーウェア)は、短パンツの基調色か、同色とし、チームで統一していれば着用できる。
 - ② ユニホームの外にアンダーウェアが出る場合があっても、立っている状態で見えなければ正さなくてよい。
 - ③ 長袖のアンダーシャツ・アーム(ロング)スリーブ等は、ユニホームに使用されている色であれば、使用を可能とする。使用の際は、チームで統一した色とすること。両腕に使用する場合、左右同色でなければならない。
 - ④ ふくらはぎのコンプレッション(加圧)サポーターは、靴下と同色であれば着用できる。
 - ⑤ 複数の部位を覆うサポーター等やメーカーのロゴが20cm²以上ものは着用を認められない。
 - ⑥ 金具入り等、敵味方を問わず他の選手に危害を与えるものについては、その着用を認めない。
 - ⑦ 眼鏡及びスポーツゴーグル等を使用する際には、固定バンドの装着を必要とする。ただし、金属製のフレーム等については使用できない。
 - ⑧ 詳細は、「JHA保護を目的とした装具」を参照すること。
- (7) 眼鏡及びスポーツゴーグルを使用する際は、固定バンドの装着を必要とする。ただし、金属製のフレーム等については使用できない。

9 登録証・公認資格証とチーム役員・選手の確認

- (1) 所定の申込を完了した登録証のあるチーム役員・選手のみが競技に参加・出場することができる。
- (2) **交代地域には、チーム責任者1名、チーム役員3名以内、選手16名以内の合計20名以内が入ることができる。**

- (3) チーム役員・選手の変更については、**5月9日(木)までに変更申請が完了**したことで決定する。変更申請が完了した**内容については、5月11日(土)各会場でのチーム受付時に配付**する。
- (4) 登録証の取り扱いについては次のとおりとする。
 - ① トスの際には、テクニカルオフィシャル(以下:TO)に登録証を提出する。提出不可、または不備(写真添付なし等)があった場合は、試合に出場・参加することはできない。
 - ② **審判員が試合前に交代地域にてチーム役員・選手及び登録証を確認**する。試合中は、TOが登録証を管理し、試合終了後に両チーム代表者に返却される。
 - ③ 失格のチーム役員・選手、裁定委員会に提訴されるチーム役員・選手には、試合後に返却しない。
- (5) チーム役員は、試合中に大会主催者が準備した「A・B・C・Dカード」を着用し、チーム責任者は「A」を着用する。また、試合終了後に返却すること。

10 公式記録用紙

- (1) **記録用紙に、ランニングスコアは記載しない。**
- (2) チーム責任者は、試合開始前に公式記録用紙に記載されている「役員氏名・カード、選手氏名・背番号」を責任持って確認し、サインをする。公式記録用紙に記入されている者だけが、交代地域に入ることができる。

11 交代地域 ※交代地域:「3.5mラインを始点とし、センターラインから12mの範囲まで」

- (1) 各チームのボール等の用具類は、競技開始前にケース等に収納して交代地域内にて管理する。競技開始後は、ボールに触れることを含めてボールの使用を禁止する。
- (2) 飲料水は、飲み口の細い容器を使用し、コップの使用を禁止する。
- (3) 交代地域では、通信機器の使用を認める。詳細は、JHAホームページ「交代地域に持ち込み可能な技術的機器に関するガイドライン」を参照する。
- (4) 試合中、選手が交代地域内で簡単な準備運動をすることは認める。ただし、ボールの使用やコート内への指示・応援、立位のままで観戦することは不可とする。
- (5) チーム役員は、相手チームのコートプレーヤーと異色の服装でなければならない。トスの際にユニホームの色が確定した後に、役員の色を確認する。
- (6) チーム役員は、原則として座っていなければならない。ただし、チーム役員1名のみが、戦術的な指示や治療を目的として、交代地域の範囲内で動くことは許される。

12 チームタイムアウト

- (1) チームタイムアウトは、1試合で3回請求することができ、前後半にそれぞれ最高で2回まで請求することができる。また、試合の後半残り5分間は1回しか請求できず、延長戦は請求できない。
- (2) チームタイムアウト請求カード(グリーンカード)は、チーム役員だけが提出することができる。請求する場合は、記録席まで持参する。提出するために、コーチングエリア(3.5m)を越えたらグリーンカードを提出しなければならず、躊躇することは許されない。ただし、請求および受け取りと判定のタイミングにより、チームタイムアウトにならない時があるので、その場合は、グリーンカードをチームに戻す。
- (3) グリーンカードは、常にベンチに置いておかなければならない。請求する時のみ、持つことが許される。
- (4) グリーンカードは、TOが直接受け取ってよい。

13 休憩時間(ハーフタイム)

- (1) 休憩時間のコート使用は、次試合のチームが練習のため使用する。
- (2) コートの使用時間は「9分」とし、後半開始までの残りの1分間は、コート整備等の時間とする。

14 テクニカルオフィシャル、裁定委員会

- (1) 本大会は、各試合にTOを配置する。配置は2名を原則とし、マッチオフィシャル(MO)兼務タイムキーパーを担当するテクニカルデレゲート(TD)、及びスコアキーパーを担当するTDで対応する。
- (2) テクニカルオフィシャル(MO・TD)は、競技委員長のもとで競技役員として各試合に立ち会い、各試合を円滑に運営するため審判員・全競技役員・補助員と協力して試合を管理する責任者である。
- (3) 本大会に裁定委員会を設置する。委員は、競技委員長・競技副委員長・審判長・副審判等とする。なお、必要に応じて関係者を同席させることがある。裁定しなければならない事案が生じた場合は、当日中に裁定して関係者に通知する。

15 負傷者カード

- (1) コート上で治療を受けたプレーヤーは、速やかにコートから出なければならない。その後、そのプレーヤーは自チームが3回の攻撃を終了するまでコートに戻ることはできない。これを表示するために、負傷者カードを記録席に表示する。3回の攻撃が終了し、コートへ戻る事が可能になったら、このカードを取り除く。
- (2) 延長戦を含めて前半・後半が終了したら、3回の攻撃回数が終了していなくても、次の開始時点からコートに入場できる。

16 次の試合のチーム役員・選手のフロアへの入場

次試合のチーム役員・選手は、前試合が終了後に両チームの挨拶が終了するまで、フロアへの入場を禁止する。競技中に次試合の役員・選手が、フロアで練習をしたり、試合を観戦したりすることがあってはならない。

17 臨時トレーナー

- (1) 臨時トレーナーとは、役員登録をしていない公的資格を有するトレーナーを指す。トスの際には、必ずTOに申告する。席は、交代地域から離れた場所に設置する。
- (2) 臨時トレーナーは、交代地域やコート内に立ち入ることや応援・指示はできず、自席での対応のみとする。選手は、一時的に交代地域から許可なく離れ、臨時トレーナー席で治療等を受けることができる。
- (3) TOが、試合開始前にトレーナーである資格証の提示を求める場合があるので準備しておく。

18 表彰

競技2日目の女子および男子の決勝終了後に優勝・準優勝の表彰を行う。

19 危機管理

各チーム・各個人で危機管理意識を高く持ち、各種の緊急事態に備える。

20 観客席

今大会は、スポーツ競技活動を通じた社会活動の一場面でもある。各チームの役員は、「競技上の注意」「会場使用上の注意」などを選手および応援者たちに徹底させる。